

事例研究

藤田 和明

株式会社日立ソリューションズ

技術開発本部 超上流プロセスエンジニアリングセンター

グループマネージャ

要求開発手法「HyThology®」

～REBOK実践の取り組み

講演概要

日立ソリューションズでは、2007年より「超上流プロセス対応力の強化活動」として、企画・要件定義工程で適用する技術とプロセスの整備、それを活用する人財育成を推進してきた。今年4月には、活動成果の一つとして、要求開発手法「HyThology™」を社内外に発表し、実務での適用を進めている。

本稿では、HyThology™開発において技術体系化のベースとした要求工学知識体系（REBOK）の活用を中心に、当社の取り組みを紹介する。

(1) 取り組みの背景と課題

IT活用によるビジネスでの価値創造とプロジェクト成功のためには、超上流工程が重要である。しかし、適用する手法や方法論には、コンサルティング・メソドロジーからモデリング手法まで、多種多様な技術が紹介されており、取り組むべき全体像が把握しきれない状況が続いている。現場で実践する為にプロセス・作業と手法を標準化する事が必要である。併せて、超上流工程の専門家たる高度IT人財（超上流人財）を広く育成し、超上流工程の円滑な遂行と要求品質の確保を図る事が重要である。

(2) プロセスと技術の体系化

顧客企業側の体制やプロジェクトの特性により作業プロセスは様々に変化する。共通フレーム（SLCP）をもとに、作業プロセスをモデル化し、このプロセスを遂行する為の技術を、REBOKでの要求工学プロセスに対応付けてHyThology™として規定した。

(3) 人財育成

ITスキル標準（ITSS）の考え方に沿って、遂行する業務・タスクや必要なスキルを、超上流人財モデルとして可視化した。検討にあたってはREBOKの共通知識領域（REBOK Core）の内容を利用した。さらにキャリア開発のために、スキル習得の為の選抜者研修を開発し、HyThology™とその技術・手法、REBOKの活用法等を現場のSE・営業担当者に提供している。

(4) 効果

一年間の試行期間を経て、現場からは『従来は経験的に獲得してきたスキルが、HyThology™として、SLCP・REBOK等の標準的な体系で整理されたことにより、ノウハウの充実や後進の育成に有益』との評価を得ている。顧客企業からも説明の依頼を受けており、顧客とベンダーが同じ言葉・考え方で超上流工程に取り組むためにも、有効な技術として適用を推進して行きたい。

S2a

7月26日

10：30～11：15

会議室A